

目次

第二編 初期歌舞伎の表象と絵画

第三編 琉球宮廷舞踊

序

凡例

第一編 初期歌舞伎の型

第一章 琉球舞踊と綾子舞―芸態比較対照研究による古歌舞伎踊の系譜考、琉球舞踊と小歌踊系民俗芸能の民族芸術学的考察―

はじめに―背景および目的―

一 方法

二 結果および考察

三 今後の展望および課題

第二章 元禄見得の成立

―近世初期「舞踊図」の成立と歌舞伎の系譜―

はじめに

一 従来の研究と考察の前提―芸態比較研究による「初期歌舞伎舞踊における型の存在」の発見―

二 初期歌舞伎舞踊と近世初期風俗画―一人立舞踊図―

―描かれた元禄見得の系譜―

三 書誌にみえる「見へ」の記述―『役者名物袖日記』『劇場訓蒙図彙』『客者評判記』―

四 見得の成立と日本人の美意識

―型・形に美を見出す感性―

資料 犀川神社太々神楽(長野県長野市安茂里)

コロナ禍の現状報告とオーラルヒストリー調査(二〇二一年度実施)・小西獅子方

第三章 舞踊図屏風と綾子舞

―初期歌舞伎の「型」の成立と舞踊図誕生―

はじめに―研究概要―

一 描かれた舞踊―先行研究―

二 歌舞伎図巻・舞妓図・舞踊図屏風と綾子舞

―絵画と舞踊―

三 初期歌舞伎をめぐる意匠

―更紗・鳳凰、遊楽・舞踊―

四 異国情緒と文化移動

―初期歌舞伎のダイナミズム―

第四章 大津絵「藤娘」と「花車」

―若衆歌舞伎「業平踊」と初期歌舞伎の表象―

はじめに

一 藤娘と風流踊における花の折り枝

二 藤娘―描かれた小袖意匠に見るイメージの連鎖/業平踊と若衆―

三 大津絵「藤娘」の系譜―「花売り娘」「花車引き娘」―

四 踊歌と舞踊の所作―若衆歌舞伎の「型」と踊歌―
おわりに

第五章 柳橋水車図屏風と三葉葵紋、遊女柳橋扇面

―流図屏風考―初期歌舞伎の表象と絵画I―

はじめに

一 柳橋水車図屏風考

―歌舞伎図巻と初期歌舞伎踊歌―

二 歌舞伎遊里図屏風と三葉葵紋

―初期歌舞伎と徳川家―

三 遊女柳橋扇面流図屏風考

第六章 誰が袖図と近世初期風俗画

―初期歌舞伎の表象と絵画II―

はじめに

一 誰が袖図屏風の成立と誰が袖美人図屏風

―時代の華と踊衣裳―

二 根津美術館蔵「誰が袖図屏風」考

―誰が袖図屏風の終焉―

三 機織図屏風と桜下弾弦図屏風考

―江戸初期三味線歌と踊歌―

第七章 枝垂れ桜と藤の花

―初期歌舞伎と琉球宮廷舞踊―

はじめに

一 若衆歌舞伎「大小の舞」の系譜―「阿万の風流大踊小踊(淡路)・小河内の鹿島踊(小河内)・綾子舞」女

谷・琉球宮廷舞踊「若衆特牛節」「かきやで風」―

二 型の伝承―初期歌舞伎と元禄歌舞伎―

三 糸桜(枝垂れ桜)と短冊―歌舞伎舞踊と琉球―

四 丸に二引紋・芭蕉

―大津絵・初期歌舞伎・琉球宮廷舞踊―

五 柳橋水車図・藤の花―冊封使御礼式「踊番組」―

第八章 首里城・琉球の民族芸術

はじめに

一 王国の記憶 琉球紅型

二 首里城公園「江戸上り展」―琉球王国から江戸幕府へ。二二六年間一八回に渡る壮大な文化移動の記憶―

第九章 琉球王国時代から現代における沖繩(琉球)の芸能祭祀と紅型―紅型の衣裳と幕―

はじめに

一 踊衣裳調査について

二 踊衣裳―第二次世界大戦後 舞踊家所蔵衣裳―

三 幕

まとめ

第十章 琉球紅型踊衣裳の研究

―オーラル・ヒストリーにみる近現代沖繩芸能家の思いと表象―

はじめに―琉球芸能と紅型踊衣裳―

一 戦後沖繩芸能家・紅型師と紅型踊衣裳

二 舞踊の生成過程と衣裳

おわりに―琉球王国への意識と県外の視線―

資料 西江喜春(国指定重要無形文化財「組踊音楽歌三線」保持者)の芸談

附一 沖繩「工芸王国」芸能の島に花開いた染め織りの美

附二 (芸態)比較研究写真・国指定重要無形民俗文化財 綾子舞と琉球宮廷舞踊 若衆特牛節・上り口説)

初出一覧

図版典拠・映像一覧

あとがき